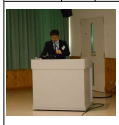
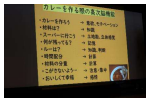
3月9日	土	15:10 ～ 16:45	**ワールドカフェ**　橋本市保健福祉センター　81名参加 『今後のリハのありかたについて　医師の立場から』 横田整形外科　横田英史先生 『今後のリハのありかたについて　理学療法士の立場から』 リハビリ型デイサービスあじさい　前田直人理学療法士 ワールドカフェ（グループディスカッション） ①昨今、社会保険制度の問題で「自立」という言葉が言われています。利用者が介護保険サービスやリハビリテーションから自立する（卒業する）ということはどのような状態か。どのような状態であれば、自立していると思えるのか。それぞれの立場（職種）でどう考えるか。 ②今回のワールドカフェのテーマはリハビリです。内科疾患・脳血管疾患・整形疾患・精神疾患・在宅（訪問）・ADL・IADLなどそれぞれの場面・職種での思いや考えをディスカッション出来ればと思います。 ・・・というテーマが出されました。 当日は別の会議後の研修会開催のため、開始時間が15:10となり、短時間でディスカッションするのはなかなか厳しかったようです。しかし、真摯にワークに参加いただいた皆様には感謝いたします。	
				
3月13日	水	14:00 ～ 15:15	**診療所内カンファレンス　松岡医院**　12名参加 8症例のカンファレンスを実施 **セニアカーのレンタル**について。対象者は非常に限られてくる。使用中の事故で命を落とした方もおられる。利用者からの要求だけで、安易に貸し出してはできない。サービスの一環としての貸し出しであるため、利用者・家族との十分な話し合いと専門職としての観察力・判断力が必要となりますね。 **投薬に関すること**　どこの診療所内カンファレンスでも繰り返し取り上げられるテーマです。患者様には薬に対して色々な考え方をお持ちです。効果や副反応を十分理解せず昔からの薬を飲みたい。30年も飲み続けているから自分が一番よく知っている。中には自分の判断で中止したり増やしたりする方も。ケアマネさんたちには薬を見せていない方も。 利用者さんが"血液さらさら系"と一言でいっても、勝手に中止すると梗塞など危険な状態を招くものもあります。 ケアマネさんは、薬に関する情報をキャッチしたら、また、キャッチできないことをまずはかかりつけ医と情報交換しましょう。 かかりつけ医や病院は、かかりつけ薬局と連携をとる努力をしてくれます。 ＊開催時間の連絡ミスで関係者の方々には大変ご迷惑をおかけいたしました。開催診療所様におきましても、時間延長して会の充実に努力いただき感謝いたしております。皆様の大切な時間を無駄にしないよう十分な注意をしていきたいと思います。また、不審な点がございましたら、ご連絡いただけますようご協力お願いいたします。	
3月18日	月	13:30 ～ 15:00	**出前講座**　ふれあいサロン満月100歳クラブ 講師　西山薬局　西山薬剤師 「感染症対策」～ノロウイルス～ 参加者　23名 "正しく理解して正しく怖がる"をテーマに、家族にノロウイルスが発症したら・・・ ノロウイルスはどこでもらってくるのか・・・・正しい手洗いとトイレの使い方。など具体的でわかりやすいお話でした。 講義終了後は突然、嘔吐物に見立てた絹こし豆腐が飛び散って大変な「事件現場」になりました。 会長自らが犠牲者となり、マスク・手袋・シューズカバー・ガウン・キャップをつけキッチンハイターキャップ2杯入りの2リットルペットボトルでてきぱきと処理をされていました。後で要に聞いたところ、仕事は早いが片づけはダメとのことでしたが、見事に感染を広げることなく処理されました。 後の質問コーナーでは、病院の薬と薬局で買える薬、漢方薬は安全か、血液検査は受診毎に必要か、物忘れについてなどまだまだ聞きたいことがあるようでした。 今後も、サロンの前に貼っていた「聞いて得する話」を続けていただきたいと思います。	
3月23日	土	14:00 ～ 15:40	**市民公開講座**　橋本市教育文化会館 参加者240名 ＊特別講演　「物忘れが気になり始めたら」 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院　副分院長・脳神経内科教授　廣西昌也先生 ・・平成30年の夏休み、先生には一体何が起こったのでしょう。この経験を脳の働きから分析し物忘れの話に。 認知症は、見たり聞いたり味わったりしたことを入力（インプット）し、言葉や表情や動きとして出力（アウトプット）するとき脳内で処理する・・・ここのつなぐところの病気です。このところを「カレーを作る」という出来事を例に分かりやすく説明していただきました。参加された方は大きくうなづいておられました。 伊都・橋本地域の人口構成は、日本全体から見ても、最前線を走っています。廣西先生は認知症疾患医療センターを立上げ、地域では皆様が集まって物忘れについて学習し、今後の日本の認知症予防事業のモデル地域となれるように一緒に取り組んでいけるといいですね。 ＊寸劇　「認知症高齢者への接し方」　橋本市内キャラバンメイト ＊脳年齢測定　24名参加　伊都薬剤師会	
3月26日	火	13:30 ～ 14:40	**診療所内カンファレンス　阪中外科**　18名参加 8症例のカンファレンスを実施 ＊病院と診療所の連携の在り方についての問題提起がありました。 病院では医師が3～6ヶ月でローテーションする。また、いつも診察を受けていない医師が不在の時は今日は主治医がいないと断られる。それでも、病院からは離れたくない患者さんもおられる。 定期受診以外の病気が生じたら、「しんどくて長時間の待ち時間に耐えられない。」と、近隣の診療所に受診する。 経過もよく解らず、薬の変更もできず・・・・。困っておられる診療所も多いかと。 病院から診療へ変更するタイミングについても意見交換がありましたが、「退院時」以外にはなかなか難しいようです。 また、退院時2ヶ月処方し診療所に紹介。2ヶ月も経たないうちに低血糖。色々事情があるとは思いますが、もう少し丁寧な退院支援が必要ですね。 出席していた訪問看護師からは、地域医療連携の取り組みとして北里大学病院等で実施されている「2人主治医制」についての提案もあり、今後もみんなで検討をしていく必要があると感じました。	